

平成 29 年度第 2 回、第 3 回研究 WG 活動報告

はじめに

倫理委員会では、平成 29 年 6 月 13 日(火)に平成 29 年度第 2 回研究 WG(出席者 16 名)を榊ドーム会議室、平成 29 年 8 月 7 日(月)に第 3 回研究 WG(出席者 18 名)を和光技研(株)会議室で開催したので報告いたします。

1. 平成 29 年度第 2 回研究 WG

(1)今年度の活動方針について

佐々木より、前回定例 WG に引き続き今年度の活動方針について説明を行いました。昨年度までと同様に、事例研究「創作事例から学ぶ技術者倫理の実学」を参考にとりまとめを行っていきます。この背景として、当委員会が旭川高専より技術者倫理教育の共同授業を依頼されたことを契機として、倫理委員会として教材を作成し、メンバー全員が講師として対応できることを念頭に置いたものです。今年度は 1 ～ 2 組(長谷川幹事・山本幹事他)が各々自由に題材やテーマを設定したうえで、昨年度と同様にとりまとめます。また、当委員会の活動も 9 年を超え、委員の顔ぶれも発足当時と変わってきたことから、今年度は比較的最近参加した委員を中心に、自己紹介に技術者倫理的な要素を少しだけ絡めたミニ講演についても実施することとしました。



H29 年度 第 2 回研究 WG の様子

(2)第 8 回技術者倫理フォーラムについて

基調講演として、東京工業大学の札幌教授に「技術者倫理 2.0 一人と社会が「よく生きる(well-being)ことを目指して―」と題して講演を依頼しています。事例研究報告として門脇委員と川浦委員が「社長の横やり(企業倫理と技術者倫理)」と題した発表を行います。なお、池田委員が共同授業報告として「旭川工業高等専門学校等における共同授業について」と題した発表を行います。

(3)第 8 回技術者倫理フォーラム：事例研究報告「社長の横やり」(門脇委員・川浦委員)

第 8 回技術者倫理フォーラムでの発表内容について、門脇委員と川浦委員から各委員に向けて変更点について説明を行いました。内容・構成は、1. はじめに、2. 言葉の定義、3. 事例研究に必要な関連知識、4. ケーススタディとなっております。

各委員からの意見は下記のとおりでした。

- ・リスク管理を強調した発表内容だと思うが、一方危機管理については事後対応のことなので、発表の時間が少ないようであれば、この部分を省略した方が分かり易くなると感じた。
- ・締めの部分が大変すばらしい内容なので、「おわりに」に時間が割けるように時間配分して欲しい



門脇委員、川浦委員による説明

2. 平成 29 年度第 3 回研究 WG

(1) H29 年度旭川高専技術者倫理共同授業について

昨年度に引き続き今年度も 12/4、12/18、1/15 の 3 回にわたり旭川高専で技術者倫理の授業を実施いたします。授業時間は約 3 時間で、講義・事例説明に約 40 分、4 班程度に分かれてのグループディスカッションに約 1 時間 20 分、発表時間・質疑応答に約 1 時間程度となっています。講義テーマ、授業の進め方は各班で事前に打合せ等を行い、授業に臨みます。なお、今年度は、長谷川幹事、山本幹事、佐々木幹事長の 3 名が各回の授業のリーダーとして授業を実施する予定となりました。



H29 年度 第 3 回研究 WG の様子

(2) 創作事例研究 7「技術者倫理 2.0 (well-being)」 (山本幹事・長谷川幹事・當麻委員)

山本幹事・長谷川幹事・當麻委員より、技術者倫理授業等で使用する「技術者倫理 2.0 (well-being)」と題した教材試案の報告がありました。構成は、これまでと同様に、1. はじめに、2. ケーススタディに必要な関連知識、3. ケーススタディとする予定ですが、今回は構成や事例の方向性を確認するための内容となっていました。この事例研究については、第 7 回、第 8 回の技術者倫理フォーラムでの基調講演の発表内容がいずれも『well-being』であったことから、当委員会で作成する教材についても「well-being」を前面に出した内容のものがあってもよいと考えて作成した旨の説明がありました。1. 「はじめに」では、技術者倫理のあり方が「予防倫理」主体であったものから「志向倫理」にシフトしており、予防倫理（技術者倫理 1.0）は公衆の安全と健康を守るためにやってはならない行動規範を順守することであり、志向倫理（技術者倫理 2.0）はいかに幸せに生きるか・福利を最

優先することとの説明がありました。2. 「ケーススタディに必要な関連知識」では、アリストテレスの幸福主義・エウダイモニア、技術士倫理綱領、技術によって得られたものと失われたもの、マーティン・セルグマンの「ポジティブ心理学」や「PERMA」モデルなどについての説明がありました。3. 「ケーススタディ」では、森鷗外と高木兼寛との脚気をめぐる論争を題材事例案として、PERMA モデルで倫理的考察を行い、技術者として「意欲的に技術を楽しむこと」が Well-Being に繋がっていくのではないかとまとめられていました。

委員からは「軍隊・戦争に関することを倫理的な事例として取りあげることに抵抗があるが、これらに関する記述を極力減らし、技術者としての考え方、振る舞いなどについて焦点を当てた方がよい」「倫理には階層（メタ・マクロ・メゾ・ミクロ）がいくつかあり、同一の階層で議論しなければ議論が発散してしまう」などの意見がありました。次回、これらの意見を踏まえてとりまとめを行っていく予定です。

(3) ミニ講演「これまでの経歴とそれに関わるいくつかの技術者倫理的な話題提供」(池田委員)

池田委員より上記表題の内容に関する講演がありました。池田委員のこれまでの経歴と中でも平成 16 年の台風による橋梁の被災に関して、詳細な被災状況の説明・技術的な解説や技術者倫理に関する話題提供がありました。



池田委員によるミニ講演の様子

おわりに

倫理委員会では会員を募集しております。倫理委員会のメンバーとの意見交換や交流を通じて、技術者倫理についてさらに深く考えてみませんか？ 詳しくは当委員会 HP をご確認ください。